

直売所等でのキウイフルーツのおすすめ品種

1 はじめに

農産物直売所では地場産の果物が人気です。しかし、県内産の果物は少なく、特に冬季は県内産の果物がほとんどない状況です。

キウイフルーツは晩秋～冬季に販売できる直売所で有望な果樹品目であり、近年、美味しい新品種が次々育成されていますが、県内での栽培事例が少なく、今後の拡大に対応した品種の選定が必要です。

今回、市販の8品種を栽培して生育特性や果実品質等を調査し、直売等に有望な品種を選定したので紹介します。

2 技術内容

1) おすすめ品種の概要

本県の環境条件下において、樹体生育、品質が良好で、貯蔵性や追熟のしやすさ等の観点から、「紅妃 (コウヒ)」、「東京ゴールド」、「香緑 (コウリョク)」を選定しました。




- 「紅妃 (コウヒ)」：9月下旬～10月上旬に収穫できる赤色系の早生品種です。小果ですが、糖度は20度以上と甘味が特に強く、食味に優れます。果肉色は黄色ですが、果肉の中央部は赤色となり、見た目も良好です。収穫後は、低温で貯蔵するだけで追熟が可能で販売もしやすい品種です。ただし、樹勢が弱く、かいよう病発生リスクもあるため、春先の防除等、栽培管理には注意が必要です。
- 「東京ゴールド」：10月中旬～10月下旬に収穫できる黄色系の中生品種です。果形が涙型で、糖度は15度以上確保でき、果汁が多く、爽やかな味で食味は良好です。収量性が高く貯蔵性も3か月程度と黄色系品種の中でも高く、販売しやすい品種です。樹勢は強く、病気にも強いので、栽培もしやすいのが特徴です。
- 「香緑 (コウリョク)」：11月上旬～11月下旬に収穫できる緑色系の晩生品種です。果形が俵型で、果肉が濃い緑色で、糖度が高く、香りも良く食味が良好な品種です。貯蔵性が5か月程度と高く、販売しやすい品種です。樹勢は強く、病気にも強いので栽培もしやすいのが特徴です。

表1 おすすめ品種の収穫時期及び販売可能時期

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
紅 妃		収穫	販売						
東京ゴールド		収穫	販売						
香 緑			収穫	販売					

表2 おすすめ品種の果実品質と特性

(令和5年度調査)

品種名		果実品質		特性
コウヒ 紅妃 	収穫期	9月下旬～ 10月上旬	・甘味が特に強い ・酸味が少ない ・追熟しやすい ・樹勢が弱い ・授粉用品種は「早雄」	
	糖度(度)	20.3		
	果重(g)	70		
	貯蔵期間	2か月		
東京ゴールド 	収穫期	10月中旬～ 10月下旬	・収量性が高い ・糖高酸低で爽やかな味 ・果汁が多い ・樹勢が強い ・授粉用品種は「孫悟空」	
	糖度(度)	15.0		
	果重(g)	90		
	貯蔵期間	3か月		
コウリョク 香緑 	収穫期	11月上旬～ 11月下旬	・糖度が高い ・香りが強い ・貯蔵性が高い ・樹勢が強い ・授粉用品種は「トムリ」	
	糖度(度)	16.8		
	果重(g)	100		
	貯蔵期間	5か月		

※貯蔵期間は、果実を収穫後、5℃で冷蔵した場合に果実品質が保たれる期間になります。

3 技術の効果およびコスト

○品種選定の参考となり、慣行品種のハイワードと比べ高単価の販売が期待できます。

○収入試算(1aあたり)

表3 収量、販売額、年間作業時間(樹間4.0m×列間4.0m、東京ゴールド6本植栽の場合)

収量	192kg(2400果)	備考:樹冠面積16㎡/樹の場合 32kg/樹(400果/樹)×6本
販売額	172,800円	備考:直売所での販売を想定 2400果×商品化率90%×80円/果
年間作業時間	36.6時間	備考:6.1時間/樹×6本、剪定と摘蕾・授粉に時間を要します。

4 留意点など

○結実3シーズン目の若木での結果です。果重や収量は年々増加しており、果実特性は今後も変化する可能性があります。

○いずれの品種も主要な果樹苗木業者から購入できます。

○キウイ品種のほとんどは自家結実性がありません。開花期間中に各品種に合う授粉樹の花粉を使って人工授粉することで、結実が安定し、果実も大きくなります。

○貯蔵方法は果実の蒸散を防ぐため、ポリフィルムで被覆しコンテナ等に入れ貯蔵します。

[その他]

研究課題名：直売所に広めるくだもの栽培技術の確立

研究期間：平成31年～令和5年度

研究担当者：農試 園研センター ウメ・果樹研究G 田中 裕介